

ほほえみ

第 56 号 (平成 31 年 3 月)
発行：小山市教育委員会



「平成 30 年度 栃木県人権に関する作文」最優秀賞受賞作品を紹介します。



「文化の違い」

小山市立小山第三中学校 1 年 荒川 空夢

私には、近所にとっても仲の良い友達があります。その子は一つ年下ですが、とてもやさしく頼りになる友達です。その子とは、五年以上も友達になりますが、初めて会った時におどろきました。なぜかと言うと、外国人だったからです。その子は、日本の文化や習慣などわからない状況で日本に引っ越しして来ました。お父さんが日本語を少し話せる程度でお母さんとその子も日本語はほとんど分からない状態でした。

その子とは小学校の登校班が同じになり、小学校に通う事で日本語を覚えていきました。

そのおかげで、私もその子とコミュニケーションもとれるようになってきました。そんな時、仲良くなれば良いなあと思っていた気持ちに変化する出来事がありました。

それは、ゴミの捨て方が日本と外国では、違いがあるという事です。日本ではゴミを袋に入れて分別しまとめて各地域のゴミ捨て場に決められた曜日の時間内に捨てますが、その子の家は違いました。ゴミを分別せず袋に入れて家の外へ置き、大量にたまってから車でどこかに捨てに行っていたのです。外に置いてあるのでニオイがし、カラスなどがゴミを荒していつてしまうのです。家が近いので、私の家もニオイがするようになりとても迷わくに思いました。

しかし、外国のやり方で長年過ごしてきたその子にとっては、そのゴミの出し方は普通の事だったのです。日本のやり方が分からなかっただけだったのです。私は、時間が経ってからその事に気が付けました。母にこの事を相談してみると母はこう言いました。

「分からないならきちんと教えてあげれば良いじゃない。」

その言葉を聞いて迷わくだと思っていた自分の気持ちに間違いがあることに気付きました。

母に言われて数日経った時に、その子と遊ぶ約束があったのでこれはチャンスだと思い、その子の家に行きおじゃまさせてもらった時、お父さんも居たのでゴミの捨て方について説明しました。日本ではペットボトルのラベルをはずして水洗いしリサイクルできる事や、燃えるゴミとビニール・プラスチックは分別しいっしょにゴミを出してはいけない事、地区で決められたゴミ捨て場がどこにあるか、教えてあげました。お父さんは満面の笑みで、「ありがとう。」

と言ってくれました。私はとても心が温かくなりました。それから、何か



わからない事があると私に気軽に聞いてくれるようになりました。

ゴミの捨て方を教えてから少し経った時にその子の家族とスーパーに行きました。大量のペットボトルを持って来ていました。私は

「なんで持ってきたの？」

と聞くと

「リサイクルボックスに入れるんだよ。」

とお父さんが答えてくれました。私が教えた事を理解して行動していたので役に立てて私はうれしく思いました。

今では家族同士も仲良くなり、私とその子との仲もさらに深まりました。外国人なので誕生日パーティをせい大にやります。一日目に、家族と祝い、次の日に友達を呼び祝います。私は一日目に呼ばれ

「あみちゃんは家族だから今日ね。」

と言ってくれました。また、その子の家は日本のルールに従って生活ができるようになり、そうする事で近所の人々とも仲よくなっていきました。

日本にやってきた外国人で最初から日本語が上手に話せる人はいません。私のその友達も、最初は苦勞していましたが、今は日本語をスムーズに話せるようになってきました。私が中学校に入ってから、接する機会が減ってきてしまいましたが大切な友達の一人です。

日本人と外国人の違いはたくさんあります。それに対してどう考えるかは人によって違いますが、分からない事を教えてあげる事は誰にでもできると思います。私は外国人と接する事で仲良くなり、外国の文化にふれて日本以外にもとてもすばらしい国がある事に気が付きました。

みなさんに一つ分かってもらいたい事があります。それは、それぞれの国の文化を共有していくことはとても大切だということです。今まで知る事のできなかった食文化や外国の日常生活を知る事は新しい発見がありとても勉強になりました。少しですが外国の言葉を覚えしました。その子の家に会い接しなければ、きっと一生できない経験だったと思います。色々な事をおたがいに関心し合う関係を作っていくことで世界の差別はなくなっていくと思います。



※ 原文のとおりに記載しています

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、外国人と接する機会はますます増えていきます。国際化が進む時代の流れの中、さまざまな国の言語や宗教、文化や習慣などの違いを理解し、多様性を認め合うことが大切です。同じ一人の人間として、互いに尊重し合い、共に支え合う「心のバリアフリー」が重要です。だれもが安心して暮らせる住みよい社会を築いていきましょう。



小山市人権関連ホームページ

【小山人権の扉】をぜひご覧ください。
webで「小山人権の扉」で検索してください。

今回の『ほほえみ』はいかがでしたか？

皆様のご感想・ご意見等を、ぜひお聞かせください。e-mail: d-gakusyu@city.oyama.tochigi.jp